

時事新報

第二千四百十七號
西曆一千八百八十九年

明治廿二年九月十九日 木曜日

舊曆己丑八月廿五日 (戊戌)

日山午前五時二十時四十分
月入午後二時十七分

潮満午前十一時五十分

機を嗜んで初めより工業に志あきものは論するに足ら

ず工場に資本は投じられども本來その事業の性質を知

らざるものも亦深く責むるに足らず唯技師として新會

社に雇はれ事業萬端委任を受けて指揮監督の役に當る

ものは身士族に非されば則ち士族流の精神を具へ少小

文を讀み理を講じ質實業を以て身を立てんとする人

々なれば國事共語るべく名譽共に重んすべし今後工

業の發達に就き其榮辱に任するものは正しく此人々な

る可き筈なるよ多き技師諸氏の其中には器械買入れの

爲め洋行して内々其製造元に掛け合ひ原價幾朱の口錢

を取り器械運轉實地工作、會社の爲めに身を勞して之

を練習する深切もあく買ひ入れたる器械を其儘會社に

引ひ渡せば用事も終り責任も盡きたりと覺悟して爾後工

の成行に頼着せざるものなきに非ずとは餘り殘酷なり

と云ふ可し凡そ西洋諸國よては工業會社の發起人が自

から其業の經驗を有して其大體を監督し得るに加へて

技師中重も立ちたる人々は或は株主の一人となり會社

と利害を共にして眞實盡力するは勿論、事業の性質如

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

あり然りと雖も此事たる獨り技師諸氏の罪のみに非す今

なる國柄にては技師が名譽を重んじて其責任を負擔す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

して之を寄贈するものもあり或は金銀器皿を製して紀念

品を呈するとからざるに事實前陳の如く

に於て思ひ切りたる豪賞を與へ斯くて又骨折り甲斐

の横着不注意を叱して之を使役する能はざると同時に

ありたれどて大に當人を滿足せしめ且つ他人を獎勵す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

して之を寄贈するものもあり或は金銀器皿を製して紀念

品を呈するとからざるに事實前陳の如く

に於て思ひ切りたる豪賞を與へ斯くて又骨折り甲斐

の横着不注意を叱して之を使役する能はざると同時に

ありたれどて大に當人を滿足せしめ且つ他人を獎勵す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

して之を寄贈するものもあり或は金銀器皿を製して紀念

品を呈するとからざるに事實前陳の如く

に於て思ひ切りたる豪賞を與へ斯くて又骨折り甲斐

の横着不注意を叱して之を使役する能はざると同時に

ありたれどて大に當人を滿足せしめ且つ他人を獎勵す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

して之を寄贈するものもあり或は金銀器皿を製して紀念

品を呈するとからざるに事實前陳の如く

に於て思ひ切りたる豪賞を與へ斯くて又骨折り甲斐

の横着不注意を叱して之を使役する能はざると同時に

ありたれどて大に當人を滿足せしめ且つ他人を獎勵す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

して之を寄贈するものもあり或は金銀器皿を製して紀念

品を呈するとからざるに事實前陳の如く

に於て思ひ切りたる豪賞を與へ斯くて又骨折り甲斐

の横着不注意を叱して之を使役する能はざると同時に

ありたれどて大に當人を滿足せしめ且つ他人を獎勵す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

して之を寄贈するものもあり或は金銀器皿を製して紀念

品を呈するとからざるに事實前陳の如く

に於て思ひ切りたる豪賞を與へ斯くて又骨折り甲斐

の横着不注意を叱して之を使役する能はざると同時に

ありたれどて大に當人を滿足せしめ且つ他人を獎勵す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

して之を寄贈するものもあり或は金銀器皿を製して紀念

品を呈するとからざるに事實前陳の如く

に於て思ひ切りたる豪賞を與へ斯くて又骨折り甲斐

の横着不注意を叱して之を使役する能はざると同時に

ありたれどて大に當人を滿足せしめ且つ他人を獎勵す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

して之を寄贈するものもあり或は金銀器皿を製して紀念

品を呈するとからざるに事實前陳の如く

に於て思ひ切りたる豪賞を與へ斯くて又骨折り甲斐

の横着不注意を叱して之を使役する能はざると同時に

ありたれどて大に當人を滿足せしめ且つ他人を獎勵す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

して之を寄贈するものもあり或は金銀器皿を製して紀念

品を呈するとからざるに事實前陳の如く

に於て思ひ切りたる豪賞を與へ斯くて又骨折り甲斐

の横着不注意を叱して之を使役する能はざると同時に

ありたれどて大に當人を滿足せしめ且つ他人を獎勵す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

して之を寄贈するものもあり或は金銀器皿を製して紀念

品を呈するとからざるに事實前陳の如く

に於て思ひ切りたる豪賞を與へ斯くて又骨折り甲斐

の横着不注意を叱して之を使役する能はざると同時に

ありたれどて大に當人を滿足せしめ且つ他人を獎勵す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

して之を寄贈するものもあり或は金銀器皿を製して紀念

品を呈するとからざるに事實前陳の如く

に於て思ひ切りたる豪賞を與へ斯くて又骨折り甲斐

の横着不注意を叱して之を使役する能はざると同時に

ありたれどて大に當人を滿足せしめ且つ他人を獎勵す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗

して之を寄贈するものもあり或は金銀器皿を製して紀念

品を呈するとからざるに事實前陳の如く

に於て思ひ切りたる豪賞を與へ斯くて又骨折り甲斐

の横着不注意を叱して之を使役する能はざると同時に

ありたれどて大に當人を滿足せしめ且つ他人を獎勵す

るの念ますく深からざる可らざるに事實前陳の如く

あるは日本工業の爲めに謀りて窮ふ痛惜に堪へざるあ

らざれども世間衆目の前に於て厚く其禮意を表して多

く隆盛なる所以よして工業發起の人々が萬端無經驗